

Q3. 小児リハビリテーションってどんな人が受けられるの？

A3. このようなことが気になっている方はご相談下さい。



誕生 乳幼児期 学童期 思春期 成人期	□早産であった		□低出生体重児であった	
	移動・運動について	身の辺りのことについて	社会・言語について	
	<ul style="list-style-type: none"> □首のすわりが不安定 □抱っこを嫌がる □お座りは出来るけど寝返りをしない □寝つきが悪い □身体の緊張が高い □伝い歩きはしているが四つ這いをしない □力加減が下手で乱暴に物を扱う □独歩が遅い □階段を登れない □背中であぐら □よく転ぶ □動きがぎこちない □バランスをとるのが下手 □股関節脱臼がある □背骨の変形が気になる □体力が衰えてきた 	 <ul style="list-style-type: none"> □スプーン・フォーク・コップを使いたがらない □髪をとくのがキライ □着替えが苦手で、裾がいつも出ている □靴下をはくのが苦手 □ジッパーを合わせられない □ウンチを伝えられない □歯磨きがキライ □手洗いを嫌がる □お風呂で顔や体を親が洗っている □ボタン留めが苦手 □鼻をかみ、ふくの嫌がる □上手く飲み込みができない □むせ込みがある 	<ul style="list-style-type: none"> □物を使って遊ぶのが苦手 □視線が合わない □かんしゃく・こだわりが強い □名前の呼びかけや音に反応しない □人のまねをしようとしていない □会話が成り立ちにくい □興味を持ったことを、指をさして伝えようとしていない □年齢相応の言葉数が出てこない □友達と一緒に遊べない □保育園・幼稚園で集団活動が苦手 □落ち着きがない □相手の表情から感情を読み取るのが苦手 □学校の決まりがわかりにくい □スケジュールを守れない 	

理学療法(PT)の目的

体を滑らかに、自分の意志通り動かす能力を獲得することを目指します。それは、関節の可動性、協調性に富んだ基本動作(寝返り、起き上がり、這い這い、四つ這い、歩行など)を獲得することです。あそび活動を通して、対人関係を構築し心理社会面の行動能力を高める事を目指します。あそびは、状況設定や、課題の選択、支援の仕方により自己達成感を育みます。補装具、車いす、椅子、歩行器などの生活補助具の作製・修理にもかかわります。

作業療法(OT)の目的

「遊ぶ」「勉強する」「身支度する」「働く」「楽しむ」「休息する」「眠る」など、生きるうえで意味のある作業、目的のある作業の実現を目指します。年齢相応な動作の獲得を目指すため、わかりやすい動作方法の提案や自助具の必要性の検討を行います。自分で出来ることを増やし、楽しく達成感や満足感を得ることで自信をつけ、子どもが自発的に成長する土台作りを支援します。

言語聴覚療法(ST)の目的

コミュニケーションや食べることに問題がある方に、専門的サービスを提供して、自分らしい生活を構築できるよう支援することです。「コミュニケーションをしたい」という意欲を育て、わかる事柄やわかることばを増やし、発達段階に応じた関わりをすることで、できることを増やしていきます。食べることについては、時期に応じた食べ物の形の検討、□に入れて飲み込むまでの□や舌や顎の動きの促し、食べる時の姿勢の調整を行っていきます。